

## 八尾市立小・中学校適正規模等審議会 第5回会議 会議録

開催年月日	平成21年7月27日（月）	
開催場所	八尾市役所本館6階 大会議室	
開催時間	午後7時00分	
出席委員	木下 会長 大野 副会長 加仲 委員 武田 委員 野村 委員	三藤 委員 市原 委員 文屋 委員 岡 委員 根屋 委員
出席職員	岡村教育次長兼学校教育部長 浦上教育推進担当部長 奥田教育委員会事務局理事 杉分学校教育部長兼総務人事課長 森田学校教育部長 網中教育政策課長 橋本学校教育部長兼施設管理課長	田中学務給食課長 田中学校教育部次長兼指導課長 浅野教育サポートセンター所長 本多人権教育課長補佐 瀧瀬教育政策課長補佐 植田教育政策課長補佐 生田教育政策課係長

【会長】 ただ今より八尾市立小・中学校適正規模等審議会 第5回会議を開催します。本日は、2人の委員から欠席の連絡がありましたが、会議の定足数に足りておりますので、会議は成立しています。では、はじめに本日配付されています資料について事務局より説明願います。

【事務局】 資料確認。

【会長】 資料について、何かご質問はありませんか。

【全委員】 質疑なし。

【会長】 それでははじめに、これまでの審議についてまとめておきたいと思います。審議会では、まずはじめに学校規模等を考えるときの視点をどのように立てればよいのか話し合い、3つの視点を立てさせていただきました。それが「子どもの育ちにとってより良い教育環境を作るという視点」「学校の設立経過、校区の歴史、地域との関わり等に留意する視点」「教育行政の効率的な運用を図る視点」の3点です。

次に、望ましい学校規模について審議し、「望ましい学校規模」というのは、「学校運営上、支障のない学校規模」とであると位置づけました。そして、

小学校では12学級以上24学級以下を、中学校では12学級以上18学級以下を望ましい学校規模とすると確認しました。

次に、学校規模の定義について審議し、小学校では25学級以上を大規模校とする。中学校では19学級以上を大規模校とする。また、小中学校ともに11学級以下を小規模校とする。という形で、大規模校、小規模校の基準を決めさせていただきました。

以上が前回までの審議の整理かと思いますが、これでよろしいでしょうか。

【全委員】 了承。

【会 長】 それでは審議に入りたいと思います。本日の議題は、「大規模校に対する方策」についてでございます。小学校では25学級以上、中学校では19学級以上を大規模校と考えて、一体どういうふうな方策を考えれば子どもたちにとって良いのかということについて、本日はフリートキングしたいと思っています。どなたからでも結構ですので、よろしくお願いします。

【委 員】 前回までに大規模校に関して感じたことは、設備の不足ということです。教室が少なければ造ればいいのか、土地が狭ければ買えばいいのかと思います。校区の人数が分かっている以上、それは行政側で準備していただくのが筋ではないかと思います。

【会 長】 設備の足りないところは増やそう、狭かったら広げようと、こういうことですね。他にありませんか。

【委 員】 例えば、児童が1000人いたら、500人と500人にして学校を造ったらいいとはなかなかないと思います。つながりだとか、兄弟姉妹や親戚がいるとか、地域という視点で見ると、新しく学校を造るのではなく、1000人を見ることのできる学校を1つ造ればいいのかという気がします。

【会 長】 今、2つに割ったらまずいのではないかという意見が出ていますが、いろいろご意見もあろうかと思いますが、どうぞ。

【委 員】 すぐにでもしなければならぬことが幾つかあると思います。その中でも女子職員のお手洗いと体操服を着がえる場所については、なんとかしていただきたいと一番に希望します。

【会 長】 学校設備や運動場などの少し大きな話と、今おっしゃったような、今すぐにもどうかしてほしいという話があるかと思いますが、他にどうですか。

【委 員】 大規模校の場合、いつまでも大規模校のままでいいのかと絶えずひっかかっ

ています。例えば、今年度は大規模校だけれど、2年後、3年後には解消することを考えておかないと、いつまでも大規模校が継続するというのはどうなのかなと思います。

もう1つは、正確ではないと思いますが、小学校の場合、大規模校の教職員数は小規模校と比べて約3倍の違いが出てくると思います。そうすると、教室や学校施設だけではなく、職員室が2つに分かれているという問題が出てきます。その辺のことを考えると、2年後、3年後には中規模校並みに変えていくんだという展望を持っておいた方がいいと思っています。

【会 長】 その大規模校がここ1、2年先に中規模にはならないので、どうするのかという話なんですね。このまま放ってはおけないという感じですね。

【委 員】 話を広げ過ぎてしまうかもしれませんが、都市計画を考える上では、家が建つことの認可や申請があるわけですから、世帯数や児童の増加は、ある程度予想できると思います。また、教育や水道など、市民1人当たりの公共サービスは分かっているわけですから、そこに住んで、行政サービスを受ける以上、準備できていてしかるべきではないかという気がします。

例えば、ある地域に人が住む場合、この人が公立学校を利用する可能性が高いことは予測できると思いますので、事前に準備できるように、教育に割く予算をもっと優先的に考えることができるのではないかと思います。

逆にある地区に学校がないのであれば、市として受け入れることができない、満足な行政サービスを受けることができないと考えられるわけです。

都市計画全体から学校の必要数を計画的に考えなければ、根本的には解決できない問題だと思います。長い目で物事を考えたときに、病院があるから住みやすい、水道設備があるから住みやすいのと同じように、学校があるから住みやすいという話であって、学校のないところに住んでも、満足な教育環境は得られないと思います。

ということは、都市計画を立てる時点で、学校や病院などの公共設備の割合全体を計画的に考えなければ、こういう事象の改善は未来永劫解消されないと思います。

【会 長】 今の視点というのは、今後、いろいろな形で開発されていくときに、都市計画レベルで学校規模も含めて、どういう学校を造るかということを考えないといけないというふうにとらえたらいいわけですね。

【委 員】 例えば、すごく大きな土地があって、そこが住宅化されるという話であれば、当然、400戸なら400戸という世帯が生まれるわけですから、その時点で学校は準備してしかるべきだと思います。それがどうしてもできないのか素朴な疑問としてあります。

【会 長】 新たに開発されて戸数が増えるのに、学校はそのまま置いているのではないかと  
いうことですね。新たな住宅開発と学校規模の問題について、事務局でお  
考えのところがあれば、お話いただければと思いますが、どうですか。

【事務局】 住宅開発では、事前に何戸の開発があるか、書類上知ることができますが、  
どういう家族構成の方が購入されるのかを予測することは難しいです。例え  
ば、マンションが建つ場合、近隣に同じようなマンションがあつて、価格帯  
や部屋の大きさも同程度であれば、ある程度は予測できますが、そうでない  
場合、子どもの数まで予測することは非常に難しいです。

【会 長】 学校規模が常に後追いにならずにすむ方法としての1つの考えかなと思いま  
す。他にありませんか。

【委 員】 やはり校舎を大きくするしか方法がないような気がします。第1回会議の資  
料で、平成20年度と26年度の推移が出ていますが、学級数はほとんど変わっ  
ていませんので、校舎を大きくするほかにはないと思います。あとは、先生  
方の数を増やしていくとか、そういうことを考えないといけないと思います。

【委 員】 大規模な学校があるから何とかしなければならぬ、小規模な学校があるか  
ら何とかしなければならぬ、これは分かります。そうすると、20年後の八  
尾市とか30年後の八尾市は、どの地域も適正な学級数の学校にしたいんです  
か。それとも、大きいところは大きいところ、小さいところは小さいところ  
があるのだから、それは地域性であるとするのですか。そういうことをここ  
で決めるのですか。一体八尾市は、50年後とか、30年後にどうしたいと思っ  
ているのか、少し見えにくいです。

例えば、大規模校になったら大規模になった理由があるわけですよ。それ  
がまずいということであつたら、なぜ大規模になったのか、なぜ小規模にな  
ったのか、なぜ適正規模の学校なのかを考える必要があると思います。

結局は、大規模を抑えて適正にしたいのか、その辺が見えないと、今、大  
きいから校舎を大きくすればいいということになると思います。それだけだ  
と昔は大規模だったけれど、気がついたら小規模になっていたということも  
起こりえると思います。また、別のところが大規模になる可能性もあります。  
だから、どうしたいんですかね。それはここで考えていいんですか。

【会 長】 どうしたいかということで、こうしますというものがあつたら、もうそれな  
んですよ。こういう審議会はないんです。

それで、50年先の話は誰にも分からないわけですが、少なくとも数年間は規模  
が大きいわけです。それは、設備と人なのかと言うときに、この間の議論の  
中で、設備を増やして、人を増やしてもやはり大きいということ自体でコミ  
ュニケーションがとりにくいなどの問題があるという話が出ていたわけです。

だから、そういう意味で、そこを具体としてどうしたらいいのかということとともに、どういうふうにしたらこの望ましい規模を保持しながらやっていけるのかということも含めて、八尾の教育がこうなったらいいなということでご意見があれば、お出しいただきたいと考えています。

【委員】 今回でいう中規模校が確かに望ましい学校規模であるかもしれませんが、大規模だから不適正、小規模だから不適正というのはナンセンスであり、大規模校を適正にする方策を考えるべきだと思います。逆もしかりで、小規模校をどうやって適正化するのかということを考えるべきだと思います。確かに、中規模校になればいいのかもしれませんが、そうでなくてもより適正にできる方策を考えるべきではないかと思います。

【委員】 前回会議で一般論の話をしてくれということでした。八尾市のことではなくて、一般論で言えば、校区再編しかないと思います。ただ、八尾市の場合はそうはいかないのではないかと思います。

【会長】 すみません。私の言い方が少し足りなかったかもしれませんが、「一般的に考えてください。」というのは、「八尾市のことを一般的に考えてください」ということです。学校見学に行った学校のことだけではなくて、八尾市でどうしたらいいかというレベルで考えていただきたいと思います。

【委員】 やはり地域とのかかわりが八尾市は強いです。ですから、校区再編を考えていく中では、かなりの障害が出てくると思います。地区福祉委員会や自治振興委員会との関係についても考えなければならないと思います。現状の中でどうしていくのかというのが八尾市に合った部分かなと思います。

【委員】 校区再編するに当たっては、地区によって意見が違いただろうと思います。その地区の方がぜひとも校区を変えてほしいという話であれば、校区を中規模に近づけるようにするべきだとは思いますが。ただ一方で、現実的には校区を変えたくないという方が多いかと思います。それを押してまで校区を変更することは現実的ではないのかと思います。

【委員】 校区再編については、昔から住んでおられる方が多い地域と、そうでない地域とでは考え方が違うと思います。比較的古くから住んでおられる方は、学校や校区に対する愛着が強いのではないかと思います。そういう意味で、地域によって温度差があると思います。ですから、地域コミュニティ単位で一定の結論を出していくしかないだろうと思います。

【委員】 校区再編しかないですね。八尾市では、八尾中学校がマンモス校になり、上之島中学校と桂中学校の3校に分かれた経験があります。その時、なぜ再

編になったのか、どのように校区を割ったのか、非常に具体的な例としてここで議論や学習ができれば、イメージしやすいかなと思います。

【会 長】 校区再編というよりも大規模校の分割ですね。先ほどは、単純に分割するのは難しいのではないかというご意見もありました。他にありませんか。

【委 員】 今、おっしゃった具体例について勉強させていただければ、より理解ができて、意見も出るのではないかと思います。

【会 長】 以前に大規模校をどういうふうに分割したのかということですね。

【委 員】 そのころの成功や失敗ということを教えてもらえれば、より理解しやすいと思います。

【事務局】 例えば、先日、学校訪問していただきました大正北小学校は、昭和63年に大正小学校から分離しています。これは、大正小学校が大規模化したため、その解消を図るという観点から行われたものです。また、中学校でも同様に、大規模化したために新しく中学校を設立しています。

【委 員】 まずは、校区を分割できたという話ですので、そこに至るまでにどういう協議があって、地元の方にどう説明されて、どう理解されたのかというところを知りたいと思います。

【会 長】 次回で結構ですので、説明が可能でしょうか。

【事務局】 次回、説明させていただきたいと思います。

【委 員】 実際問題として、大正北小学校と八尾中学校だけなんでしょうか。

【事務局】 昭和40年代、50年代に児童・生徒数が急増した時期があります。この時期に例えば、八尾小学校から高美小学校が分離され、さらに高美南小学校が分離されました。また、中学校では、成法中学校から高美中学校が、曙川中学校から曙川南中学校がそれぞれ分離しています。このように昭和40年代から50年代前半にかけて、多くの学校が分離しています。

【会 長】 人口急増期には八尾市だけではなく、どの市でもそういう形でやってきていますね。この大規模校の分離に関しまして、資料請求等を含めて、他にご意見がありましたらお願いします。

【委 員】 これまでにいただいた資料が地図を見ながら数字を見るようになっていて、

見にくいと思います。地図に学級数などを書いていただいたら見やすいですし、イメージしやすいと思います。

【会 長】 ビジュアル化したらいいいということですね。可能であれば、お願いします。分離に関しまして、他にご意見ありませんか。それでは、次に校区再編についてはどうでしょうか。

【委 員】 学校が増やせないという状況であれば、中学校区で割るのではなく、八尾市全体で校区再編を考えなければ、なかなか難しいと思います。例えば、ある中学校区でここここをくっつけるとか、ここここを離してここくっつけるというのではなく、八尾市全体で見ないと、なかなか校区再編は難しいのではないかと思います。学校を増やすことができるのであればいいとは思いますが、今の学校数をキープしながら校区再編というのは、市全体で考えないと難しいと思います。地域性を抜きにして、スパッと割っていくというのも1つの考え方ではないかと思います。

【委 員】 考えるのであれば中学校区だと思います。例えば1つの中学校区が4小1中になるとか、そういう考え方も必要ではないかと思います。でないと、適正規模には絶対ならないわけですから。地域性などを取り上げてしまうと、校区再編というのはなかなか難しいので、地域性を考えずに、校区割りを考えていくというのも1つの方法ではないかと思います。

【会 長】 前回、2小1中が基準ではなく、3小1中もあるし、1小1中もあるという話をしました。小学校と中学校の関係はどうなのかという新しい意見も出ていたかと思いますが、そのあたりも含めてご意見があればお願いします。

【委 員】 校区再編するということでは、地域を考えていくとできないと思います。しかしその一方で、地域性を無視してしまったら、人間性がなくなってしまうのではないかと思います。

【会 長】 校区の問題というのは、本当に地域に密着しているもので、そこまで考えられるんだろうかというご意見ですね。他にどうでしょうか。

【副会長】 大阪府、あるいは近隣の都道府県で、実際に全市的な校区再編をしたというような状況について、情報として出していただければありがたいと思います。

【事務局】 次回ということで、よろしくお願いします。

【会 長】 大阪府下、いろいろなところで学校再編の動きがありますので、もし適切な資料がありましたら、お願いいたします。

【委員】 そもそも、校区はどのようにして決められているのか知らないのです、教えてほしいと思います。

【事務局】 明治5年、6年に設立されている学校の校区につきましては、非常に古い時代のことで、お答えすることが難しいです。一方で、先ほど申し上げました児童・生徒数の急増期に新たな学校が設立された際には、本市が設置しております八尾市立小・中学校通学区改正審議会におきまして、個別の学校の通学区についてご審議いただき、審議会からの答申に基づきまして通学区を決めています。

【会長】 どういうことを審議して分離する際の校区を決めてきたのかということが分かれば、現在の校区割りについても想像がつくのではないかとのご意見です。他にございませんか。

【委員】 最近の校区については、通学路のことを第1に決めているという印象を受けますが、例えば、龍華小学校から永畑小学校と亀井小学校が分離した際には、龍華小学校のほんの一筋横が亀井小学校区になりました。これは、当然、当時の学校規模に合わせるためだったと思いますが、目の前に龍華小学校がありながら遠い亀井小学校に通わざるを得ないということも現実としてはありますので、通学路を優先で校区割りが決まっているわけではないと思います。ですので、現状の校区を決めるに至った過程というのは、やはり勉強しておく必要があると思います。

【委員】 このあたりのところは非常に難しいところだと思います。確かに、学校が見えているのに、その学校ではなく、違う学校に行かなければならないことがあります。大きな学校や小さな学校になれば、適正化を図るために、どこかで線を引かなければならないと思いますが、実際にそうするとなれば、総論は賛成だけれども、各論は反対となるのではないかと思います。実行に移すとなると、非常にいろんな障害が出てくるだろうなと思います。

【委員】 一番近々の中学校の分離は、龍華中学校から亀井中学校ができたときですが、その時も大変な年月とエネルギーを注ぎ込んで、ようやくできたと聞いています。当時はまだ周りがたんぼで、何とか土地を確保できたと思いますが、今そういう土地があるのか、あってもどれだけのお金がかかるのか、すごくハードルや困難があると思います。それだったら我慢して、今のところで校舎を継ぎ足していく方がまだましだなというところで推移してきたのが現実ではないかと思います。

だから、学校分割というエネルギーが今の八尾市にあるのかと言われたら、それは無理だろうという思いがあります。そうすると、校区の再編をしながら大きな学校の大きさを軽減し、小さな学校の小ささを何とか改善するとい

うところにいくのが現実的ではないかと思えます。

しかし、それぞれの校区には何十年という歴史がありますので、簡単にはいかなさうと思えます。ここにも、過去に手をつけられなかった大きな問題があるかと思えます。だから、他市の例なども参考にしながら、校区の再調整をするという現実論に落ちつかざるを得ないかなと思えます。このまま放っておいて良いことはないと思えますので、何とかそういうところに手をつけられるようなきっかけになればいいかなと思えます。

【会 長】 校区の再編の問題は、大規模校だけではなく、小規模校も視野に入れる議論ですね。

【委 員】 校区の再編成の問題については、再編成が必要な地域と必要でない地域に分けて論議しないと進まないのではないかなと思えます。例えば、校区に古くからお住まいの市民は、分離だとか再編成は基本的に反対するだろろうと思えます。地域への愛着があるわけですね。そういう意味で、特定の地域の再編成ということであれば、それが論議できる地域ならば、比較的まだ可能ではないかという意見を持っています。

【委 員】 大規模校であれば、どうして教室数を増やすことができないのか、トイレにしてもどうして増やすことができないのかを説明しないと、住民は納得できないと思えます。トイレの問題にしても、当たり前のことができていないのに、いきなり分割かということになると思えます。まずは現時点で設備の足りない点は、どうして補充できないのかを教えてください。

【会 長】 分かりました。少し議論を整理します。大規模なところをどうしたらいいのかということで、まずはじめに施設・設備を充実させたらいいんだと、これが1つの案です。順番があるわけではありませんが、2つ目の案として、大きかったら分離したらどうかと。3つ目に、いっそ校区を再編したらどうか、この3つの案が出ていて、今、どれがいいとか、どっちがどうという話ではなくて、それぞれについてご意見を聞いているという段階です。

特に、校区の再編では、市全体の再調整、あるいはできるところだけという意見が出ていますが、校区の再編まで含めて、一度考えてみようという案です。また、施設・設備の充実では、校舎の建てかえを含めた話と、緊急に女子職員のトイレを改善すべきであるというような話が出ています。

今簡単に、整理をさせていただきましたが、このレベルでのご意見がありましたらお願いします。

【委 員】 私は小規模校の校区にいるので、その学校がなぜ小規模になったのか言えませんが、別の学校がなぜ大規模になったのか分かりません。机の上で考えることももちろん大事ですが、現実的にできるのかまじめに考えるとすれば、

なぜ大規模校に至ったのか知る必要があると思います。

【事務局】 様々な社会的要因があるかと思いますが、特定の地域の人口が増えたことから、児童・生徒数が増えたと思います。その背景には、社会的な要因として、例えば交通の利便性や大規模な住宅開発、商店などの生活環境の変化など、様々な要因が考えられるかと思いますが、しかしながら、今申し上げたようなことだけが原因かと言いますと、断定しかねるところがあります。

【会長】 この審議会ではどのレベルまで議論するのかというところがあると思います。例えば、分割を考えてみましょうというときに、地域がどう反対し、具体的にどうするのかというところまでは、この審議会として答申できる内容ではないと考えています。ですから、大規模の問題を考えるに当たって、施設・設備の充実という方策がある、あるいは2校に分割してはどうか、校区再編も視野に入れてはどうか、そういうレベルになるのではないかと思います。どれが実現可能かというところまではこの審議会では審議できる範囲を超えていると考えています。

その上で、今言った一般的なレベルで答申していくに当たっても、答申する以上は、やはり一定の議論を踏まえ、これまでの八尾の経過も知りながら、実現可能性があるのではないかという形での答申は必要と思ってお議論をいただいているわけです。

【委員】 先ほど女子職員の手洗いの問題が出ていましたけれど、もう1つ何とかしてあげるべきだと思っていることは、同一学年が南北2つの校舎に分かれていることです。これは非常に教育上好ましくないと思いますので、できるだけ早くすべきだと思います。

【会長】 そうですね、学年が2つに分かれていましたね。他にどうですか。

【委員】 学校訪問をしました志紀小学校の話が出ていますが、南高安小学校も1小1中でマンモス校ですね。南高安小学校はどうなんでしょうか。ひょっとしたら教室が足りている可能性もあるわけですよ。ですから、南高安小学校の現状についても知りたいと思います。

【事務局】 平成21年度5月1日現在、南高安小学校の児童数は933人、通常学級の学級数は27学級となっており、体育館をはじめ、少人数分割授業のための教室や特別教室の使用において、様々な制約があると認識しております。

【会長】他に今日の段階で聞いておこうということはありませんか。

【全委員】 質疑なし。

【会 長】 それでは、小学校は学校訪問を行いましたので、比較的イメージをお持ちいただいていると思いますが、中学校についても考えていただかなければなりませんので、前回会議で「中学校も行ってみたい。」というお話もありましたが、いかがでしょうか。

【委 員】 学校訪問がいいのか、中学校の先生方にこの場で説明いただくのがよいのか、何ともわかりません。

【会 長】 他の方はどうでしょうか。

【委 員】 見るにこしたことはないかと思います。ただ、大規模な学校は曙川南中学校だけで、学級数も望ましい学校規模から1学級多いぐらいなので、見て分かるのかなという不安もあります。

【会 長】 他の方は、いかがでしょうか。

【全委員】 質疑なし。

【会 長】 小学校と中学校とでは、学校の雰囲気も違うということもあるかと思います。一度、学校訪問が可能なのかどうか事務局と打ち合わせてみるということで、いかがでしょうか。

【全委員】 了承。

【会 長】 それでは、次回会議までに事務局と相談してみます。

今日は、大規模校に対する方策として、次の3つの方向が出たと思います。

1つは、施設・設備の充実の話です。その中でも、女子職員のトイレと同一学年の分離は早くすべきだという意見がありました。あるいは校舎を児童数に合わせて充実させようという話でした。また、少し出ていましたが、教員を補充するという形での方策がないだろうか、これが1つです。

次に、大規模校を2校に分離するような形が考えられないか。これはこれまでの八尾市の分離校の経験等を次回資料として出していただいて、もう少し緻密な議論をしたいと思います。

3つ目は、校区再編です。全面的な再編なのか、一部再調整なのか、特定の校区の調整なのか、そのレベルは分かりませんが、小規模校も視野に入れながら、校区の問題をどれだけ考えられるのかという話です。なかなか難しいという意見も強いです。今までのコミュニティの問題、校区等の問題がありますので、難しいという意見も踏まえながら、考えてみようというレベルの話です。

この3つの方向なんですけど、これで次回、議論を深めるということによろし

いでしょうか。

【全委員】 了承。

【会 長】 何かこの際、こういう資料も欲しいとか、こういうこともちょっと言い忘れたということがありましたら、どうぞ。

【委 員】 大規模校に関しては、現実的には数が少ないわけであって、小学校であれば南高安小学校、志紀小学校、刑部小学校、中学校であれば曙川南中学校になっていますので、この4つの学校のいいところ、悪いところ、現実的などころを情報としていただければありがたいと思います。

例えば、南高安小学校では、どんなことで困っているのか、あるいは学校としてはこういうふうにしてほしいとか、学校によって希望が出てくるかなと思いますので、それが分かれば教えていただきたいと思います。

【会 長】 実際に、具体的にどうなっているのかという情報をいただけるならありがたいということですね。他にありませんか。

【委 員】 例えば志紀中学校や志紀小学校の場合は、防音の関係で、一部、自衛隊からのお金をもらって補修している部分があるかと思いますが、そういう学校は他にあるのでしょうか。もしあるならば、再編成・分離の問題について若干影響があるかと思いますが、お聞きしたいです。

【会 長】 それも、次回ということでもよろしいでしょうか。他にありませんか。

【全委員】 質疑なし。

【会 長】 次回会議では、校区分割の資料等、何か手元に要りますね。今までの資料が手元にはあるけれども、必要な資料だけそろえてみる必要があるかもしれませんので、事務局と相談してみます。それでよろしいでしょうか。

【全委員】 了承。

【会 長】 それでは、次回の審議会も引き続き「大規模校に対する方策」を議題としたいと思います。事務局、何かありますか。

【事務局】 次回、審議会を8月24日の月曜日、午後7時より、八尾市立青少年センターの1階、集会室で開催したいと考えておりますので、よろしくお願ひします。

【会 長】 委員の皆様、それでよろしいでしょうか。

【全委員】 了承。

【会 長】 それでは、八尾市立小・中学校適正規模等審議会 第5回会議を終了します。  
ありがとうございました。